

邑南町立石見中学校改築工事基本設計業務プロポーザル二次審査講評について

日時 令和2年11月25日(水)

午前10時 開始

午後4時10分 終了

場所 邑南町矢上公民館 多目的ホール
第3会議室

出席委員

委員長	日 高 輝 和
委員	金 堀 一 郎
委員	山 下 政 俊
委員	細 田 智 久
委員	石 原 弘 之
委員	日 高 禎 治
委員	土 居 達 也
委員	上 田 修

事務局

学校教育課長	高 瀬 満 晃
学校教育課統括課長補佐	種 昇 二
学校教育課主任	湯 浅 康 平
学校教育課主事	原 田 裕 美

【内 容】

1. あいさつ
2. 概要説明
3. 議事
技術提案書の確認・評価・選定について
4. 委員長講評

【選定委員長講評】

現在の石見中学校は、昭和41年から教室棟・管理棟・屋内運動場・寄宿舎が建設され、昭和43年に生徒数531名をかかえる学校として竣工。当時は先進的な構造であったことから、特に屋内運動場については当時施設見学が開催されるほどでした。

今日に至るまで、防水改修や修繕等を行いながら利用していますが、老朽化による施設の劣化は著しく、また教育内容の変化・充実に向けた施設整備の対応も困難なことから、平成

31年2月に町議会・地域・教職員・PTA・学識経験者等で構成された検討委員会を発足し、令和元年度に「石見中学校校舎改築基本構想・基本計画」を策定し、これによって石見中学校改築工事基本設計業務プロポーザルを行うに至りました。

これは、邑南町において学校施設で初めてのプロポーザル方式による設計者選定であり、画期的な試みとなります。プロポーザルは、案ではなく人・チームを選ぶものということで、この場所に建てるべきという考え方・信念がしっかりしている人を、受託候補者として選んでいただきました。二次審査にご参加いただいた4者のいずれの提案も、それぞれに力の込められた魅力的かつ構想・計画に沿った提案であり、その差はわずかでありました。

その中で評価を行い選定するのは非常に困難でしたが、選定委員会として新しい石見中学校の建築を実現するにふさわしい方を選定することができたと考えております。

以降は、二次審査参加者の方についてです。発表順に申し上げます。

①者 有限会社ナック建築事務所の提案について

普通に良い提案で素直な配置であることから無理が無く、アプローチ等もどの世代にもわかりやすいように考えられており、パサージュなど交流空間としてラーニングセンターを中心に据えるなどデザイン的にも良く、キャノピーにより悪天候時の使いやすさも上がるのではという評価がありました。また体育館も圧力を感じないという評価でしたが、地域交流エリアや体育活動と文化活動の分け方に配慮や工夫が不足している指摘や、車路の提案が弱いこと、地域密着の提案ではあるがシンボリックとなる学校づくりとしては提案に魅力が欠けるなどといった指摘もありました。

②者 株式会社浦辺設計【次点者】

学校の実態を知っておられるからこそその提案であると感じられよくまとめてありました。マルチユニットが特徴的で、メディアセンターを中心とし、学年同士や特別支援学級の意識も高く、教務センターとHRも程よい距離にあることや、屋外と保健室の位置関係や相談室とファンクションルーム等、生徒の居場所づくりも良く、少人数学級編成の考え方も研究されたことがうかがえ、地域交流やホールイベント等面白い空間が期待できる意欲的な提案で、災害時等の設備等よく考えられていましたが、少し詰めすぎ感が感じられることや、駐車場が遠い印象を受けること、空間を混ぜていないために1階だけで授業が完結するかもしれないといった教科センター方式のジレンマや、実施要領に無い独自提案が含まれているとの意見もありました。

③者 共同設計・ラーバンデザインオフィス 設計共同体

木造平屋で基本構想において多くあった意見を取り入れた提案で、教科教室の配置も独特な変化がありゾーニングも良く検討され、移動する図書室メディアコモンズ、災害時にお

ける避難所機能としての体育館地下利用など非常に特徴的でチャレンジな設計でしたが、学年間の距離が生まれる可能性や、独特な配置のため、地域利用時における保護者や高齢者の方への影響や体育館駐車場の検討不足、樋については雪で凍結を繰り返すことによる木造とＲＣの取り合いに将来劣化の不安が残る等の指摘もありました。

④者 （株）シーラカンズアンドアソシエイツ【受託候補者】

先進的な設計で、構造とかの工夫について印象に残るほか外周のメンテナンス道路などもうまくまとめられていました。またギャラリーベランダ等についても開放感が感じられるほか、学びの並木道については、対話を大切にする空間提案としてよく考えられています。2階のラーニングセンターについて教科ラボのスペースについては、学習履歴を日常的に感じられる空間として壁面や可動パネル等組み合わせ利用が期待できるほか、学年のまとめり、地域開放のエリア分け、空き部屋をつくらない工夫等うまくまとめられていました。また空調も空間を低コストで冷暖できる提案がされており、評価の高い案でした。

二次審査では対象となる４者に約６０名の観覧者を前に公開プレゼンテーションを行っていただいた後、非公開で質疑応答をさせて頂きました。技術提案書からは読み取れなかった考え方をうかがうことができ、皆さんの意欲を直に感じる事ができました。

４者の発表を受けた後、選定委員会にてそれぞれが評価基準を基に採点を行いその結果をもとに意見交換と総合的評価を行なった結果、受託候補者として株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ、次点者として株式会社浦辺設計を選定しました。

４者の皆様には新型コロナウイルス感染対策はもちろん、当日までの間に多大な労力を費やしていただき、本プレゼンテーションに望んでいただきましたことに深く感謝申し上げます。これから、いよいよ石見中学校改築工事基本設計業務に取り組みことになります。生徒数１３０人程度の小規模な学校ではありますが、学校・地元・町・建築家が一丸となって、この場所に魅力的な学校施設を建設して頂けることを願っています。

最後に、ご参加いただきました全ての皆様の今後益々のご発展を祈念いたしまして、本プロポーザルの講評と致します。

令和２年１２月 ７日

邑南町立石見中学校改築工事基本設計業務公募型プロポーザル選定委員会
委員長 日高 輝和